

目 次

一、我が国労働組合の概況	一四頁
二、我が国労働組合の組織	一五頁
三、我が国労働組合の活動	一六頁
四、我が国労働組合の将来	一七頁
五、我が国労働組合の現状	一八頁
六、我が国労働組合の展望	一九頁
七、我が国労働組合の結論	二〇頁
八、我が国労働組合の附録	二一頁
九、我が国労働組合の索引	二二頁
十、我が国労働組合の参考文献	二三頁
十一、我が国労働組合の謝辞	二四頁
十二、我が国労働組合の略歴	二五頁
十三、我が国労働組合の略図	二六頁
十四、我が国労働組合の略表	二七頁
十五、我が国労働組合の略語	二八頁
十六、我が国労働組合の略号	二九頁
十七、我が国労働組合の略称	三〇頁
十八、我が国労働組合の略号	三一頁
十九、我が国労働組合の略号	三二頁
二十、我が国労働組合の略号	三三頁

一般情勢報告

昭和七年九月結成大會より昭和八年九月まで

我等が日本労働組合會議を結成して茲に二ヶ年、茲に第二回年度大會の一般情勢報告をなすに際し、我等はまづ、労働運動と絶對的相關々係にある世界資本主義並にその一環たる日本資本主義の過去二ヶ年の情勢に就て語らなければならない。

一九二九年末に於ける相對的安定の破綻を契機として、以來一踏退の歩道をたどる世界資本主義は、インフレーション政策と並行する産業合理化、生産制限、労働強化、スピードアップ等の偽稱的姑息手段により、目前に迫る落着を回避すべく、未曾有の苦悶とアガキを續けて來たのである。

しかしながら、資本主義機構の奥深く内蔵する諸矛盾は、かくの如き消極的乃至姑息的手段によつて除去し得るものではない。よ、全世界のブルジョアジーの必死の努力にもかかわらず、世界資本主義の本質的矛盾たる生産と消費との不一致と不調和は愈々増大し、ために世界資本主義は益々萎縮と衰退を餘儀なくされたではないか。

例へば、之を全世界の生産指數に就てみると、一九二八年を一〇〇として昨年度に於ては僅かに六七、乃至六八てふ驚くべき激減を示し、今年上半年期に於ても引續き続減の傾向を示してゐる。

就中、かつて永久的繁榮さへも傳へられた世界資本主義の王座アメリカ合衆國が、一九三二年度に於て三割五分てふ恐るべき